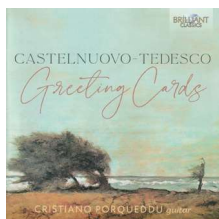




外盤案内

IMPORT DISC

Ⓒの表示のあるCD、DVDは、現代ギター社通販サービス及びGGショップで取扱い中、または取扱い予定の商品です。

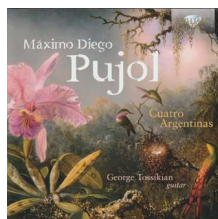


Castelnuovo-Tedesco: Greeting Cards ポルケツドウ

Castelnuovo-Tedesco: Greeting Cards
Cristiano Porqueddu (G)
Brilliant Classics BRL96051
オランダ (欧州) 盤

●C = テデスコは作品番号 170 に友人たちへの音楽の贈り物としてのグリーティングカードのシリーズを残した。51 の作品が含まれるが、その内ギター作品は 21 作品と最も多い。C = テデスコがセゴビアとの交友からギターに興味を持ちギター界との結びつきからこれらの作品が生まれたのであろう。日本からも高橋 功と松田二郎 (晃演) の二人に作品が贈られている。作曲法は音階をアルファベットに対応させ、献呈者の名前を当てはめることで基本音列を作りこれをもとに献呈者に関わる音楽的な要素を絡めることで、それぞれ個性的で多様な作品としている。タイトルも凝っていて、キエザ、ジラルディーノ、カラブリアなどへの作品はその捻り方も面白い。C = テデスコの友人に対する親しみも感じられ、それぞれの個性も音楽的に巧く表現されている。ボーナスとしてジラルディーノがC = テデスコの思い出に作曲した 2 曲が収録されている。

[グリーティングカード〜トナディーリヤ、ロンデル、ハバネラ形式の前奏曲、短歌、ユージンへの子守歌、小バラード、サラバンド、ロマンス、パーセルへのオマージュ、キューバの歌、ベネスエラの歌、練習曲、教会からのアリア、ブラジレイラ、日本の画、天使の飛行、カラブリアの歌、タランテラ (C = テデスコ)、カステルヌオーヴォ = テデスコへのオマージュ、地中海ソナタ (ジラルディーノ)、ほか]

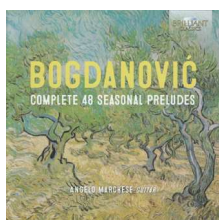


Pujol: Cuatro Argentinas トシキアン Ⓒ

Pujol: Cuatro Argentinas
George Tossikian (G)
Brilliant Classics BRL96703
オランダ (欧州) 盤

●ギリシャ出身のトシキアンによるプホルの 4 作品を収録したアルバム。プホルの多様な個性がよくわかる選曲である。ユパンキの主題は〈風の枝が泣いている〉によるが、アルゼンチンの民族音楽であるビダーラをもとにした、民族風を活かした変奏曲に仕上げている。ピアノソラに捧げられた〈哀歌〉はミロンガとタンゴをもとにピアノソラへの敬意と哀悼を示しているが、プホルが昇華したピアノソラの音楽である。〈ソナチネ〉は音楽院で学んでいた時の作品、3 楽章形式をとっているが内容は民族風の響きを巧く使っておりプホルらしさが出ている。5 つの章からなる《プラタ組曲》はアルゼンチンのリズムを基にしているが、舞曲のリズムとモダンな和声のバランスがそれぞれの曲に華やかさを与えている。副題がアルゼンチン風の 4 曲となっているが、その通りのプホルらしいアルゼンチン音楽が表現されており、トシキアンの演奏もこのアルゼンチン風を巧みに示している。

[アタウアルパ・ユパンキの主題による変奏曲、あるタンゴ弾きの死への哀歌、ソナチネ、プラタ組曲第 1 番 (プホル)]

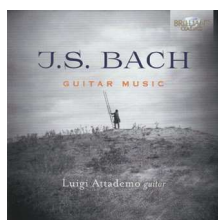


Bogdanovic: Complete 48 Seasonal Preludes マルケーゼ

Bogdanovic: Complete 48 Seasonal Preludes
Angelo Marchese (G)
Brilliant Classics BRL96244
オランダ (欧州) 盤

●ギタリストであると共に、出身の東欧風の音楽にジャズなどの音楽を取り込んだ作品を生み出してきたボグダノヴィチのまた異なった個性/音楽性が感じられるアルバム。『季節の前奏曲集』として 4 つの季節それぞれに 12 曲で構成されている。それぞれに込められたテーマは多様ではあるが、背景になっているのは俳句のようである。各作品短い小品群であるが、俳句の形式的なシンプルさにあわせているのであろう。ジャケット解説の最初には子規の俳句が(日本語で)記載されており、芭蕉や蕪村などの俳句も内容理解のために記載されている。過去の作曲家へのオマージュやポピュラー音楽の取り込みなど、作品によっては分かり易く(春の 4 番や冬の 8 番)、また一捻りした夏の 10 番、秋の 4 番などは作品の背景を探るのも面白そうである。演奏はこのレーベルから以前ボグダノヴィチのアルバムを録音したマルケーゼが行っており、ボグダノヴィチの音楽的多様性をよく表現している。

[季節の前奏曲全集〜 12 の春の前奏曲集、12 の夏の前奏曲集、12 の秋の前奏曲集、12 の冬の前奏曲集 (ボグダノヴィチ)]



J.S. Bach: Guitar Music アッタデモ Ⓒ

J.S. Bach: Guitar Music
Luigi Attademo (G)
Brilliant Classics BRL96679
オランダ (欧州) 盤

●イタリアのアッタデモによるバッハ作品集。通常ギターでよく演奏されるリュート作品からの選曲ではなく、幅広いバッハの音楽からの選曲である。最後の作品を除いてアッタデモ自身の編曲であるが、カンタータからのよく知られた 1 曲はラッセルの版を用いている。ラッセル版は多声的な表現がさらに工夫された構成で音楽の拡がり分かり易く感じられる。アッタデモはチェロのロストロポーヴィチやピアノのリパッティなど、ギター以外の他の演奏家の演奏からもインスピレーションを得ており、確かに最初の《チェロ組曲》の前奏曲は深みと幅広さの感じられる演奏である。次の〈トッカータとフーガ〉はオルガンの重厚さはないが細かな音の動きはギターの得意とするところであろう、軽やかさと 6 弦での音の共鳴が面白い。アッタデモの〈シャコンヌ〉は丁寧な流れ、じっくりと多様な変奏を紡いでいく。この辺りはアッタデモらしいギター風の表現に満ちた演奏である。

[前奏曲〜チェロ組曲第 1 番・ト長調 BWV1007、トッカータとフーガ・ニ短調 BWV565、シャコンヌ〜ヴァイオリンバルティータ第 2 番ニ短調 BWV1004、アリア〜ゴルドベルク変奏曲 BWV988、ガヴォット〜チェロ組曲第 6 番ニ長調 BWV1012、ガヴォット〜バルティータ第 3 番ニ長調 BWV1006、シチリアーノ〜ヴァイオリン・ソナタ第 1 番ト短調 BWV1001、シチリアーノ〜フルート・ソナタ BWV1031 (バッハ〜アッタデモ)、主人の望みの喜びよ (バッハ〜ラッセル)、ほか]